

人生設計とお金 考察

愛媛銀講座 大学生ら70人参加



各自のライフプランについて意見を交わす
松山東雲女子大・短期大の学生

＝27日午後、松山市桑原3丁目

国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の観点で、生き方や課題を考える愛媛銀行の寄付講座「現代社会とライフデザイン」が27日、松山市桑原3丁目の松山東雲女子大・短期大で開講した。初回は1年生ら約70人が、ライフプラン

にに応じて必要なお金を確保することの意義を学んだ。ひめぎん情報センター主任の岩本八重さん（41）が講師を務めた。岩本さんは住宅購入や子どもへの教育、老後などステージごとに要する額を示し、各自でプランを考えるよう促し、預貯

金や定期預金、投資信託などの金融商品の特徴を説明。お金を「使う」「守る」「増やす」と目的に応じた管理を呼びかけた。18歳への成人年齢引き下げに伴い、親の同意なしで契約できるようになった点にも触れ、悪徳商法に遭わないよう注意喚起した。

1年の一柳琴美さん（18）は「将来、お金がどれくらい必要かが具体的に分かり良かった」と話した。学生は来年1月まで全15回、外部講師らからワークライフバランス、持続可能なまちづくりなどを学ぶ。愛媛銀は、聖カタリナ大（同市北条）でも29日から公開で寄付講座を開く。

（西尾寛昭）